

2018 年度 第 47 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物件名	九谷焼諸江屋ギャラリー			
	所在地	金沢市		
設計者	東 三知友 (株)サンテン・コーポレーション			
	TEL		URL	



## 別添

### 九谷焼諸江屋ギャラリー 説明概要

#### 「原点進化」＝伝統と革新

金沢の目抜き通り片町で、金沢の老舗として 155 年続く「九谷焼諸江屋」が、これからも象徴的な店舗で有りたいとの思いから、

「陶器」の原料である『陶石、陶土』を用いて「革新」を行う。

日本の伝統的な精神を感じさせつつも、懐古趣味に陥らない、新しい表現を行なうことを「革新」の目的とし、この目的を達成する為に、以下の具体的手法を用いて改修を行った。

壁：ファサード、展示スペースは天然の土『陶石、陶土』で、版築風にし、奥深い質感と窯を表現した。

天井：躯体表しとして、ルーバーを配し、直線的で無機質に、他の部分も無機質な色合いにする事で展示スペースを「魅せる」空間とした。相反して、打合せスペースは、窓には障子を衝立（市松柄）で仕切りことにより、外国人観光客にも「和」を感じて貰える空間を目指す



2018 年度 第 47 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	でか山を継承する家 / 古民家リノベーション			
	所在地	七尾市		
設計者	岡田 翔太郎 岡田翔太郎建築デザイン事務所商事合同会社			
	TEL		URL	



concept1

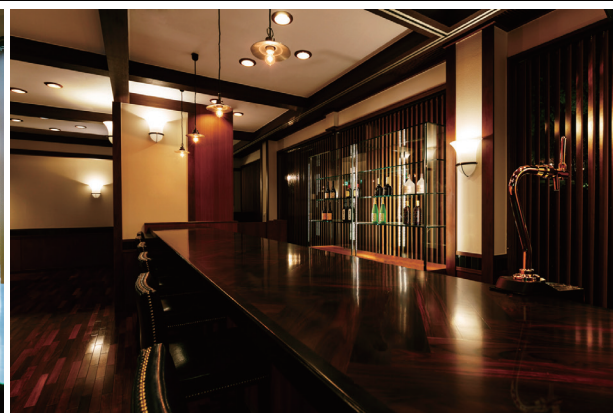
石川県尾市内の築 100 年を超える古民家の改修である。かつて旅館として使われていた建築を夫婦のための住宅にコンバージョンを行った。

かつての日本人たちが暮らした木の文化の原型「古民家」。今なお日本各地に残され、優れた日本文化へ憧憬と感銘を与えてくれる。しかし現在では古民家の多くが耐震性や老朽化、維持費などの問題から多くが取り壊されている。今回改修した M 邸も老朽化が進んでいたが、単なる再生を超えて、デザインと新しい使用価値の創出によって、住まい手の現代生活が機能するように設計を行った。この建築の特徴は町屋の空間構成である。玄関から続く裏庭までの一本の動線の途中には土蔵や光庭があり 特徴的なこの空間構成は継承することとした。玄関は既存の 2 階の床を取り除き吹抜けとし上部の窓から自然光が入る明るい空間とした。土蔵は施主のプライベートルームとなっていて、音楽映画を楽しむことのできる部屋とした。既存の建築を生かしつつ施主のライフスタイルを落とし込むことで、ひとつの古民家の中に多様な空間が生まれた。ファサードは鎧壁と漆喰塗りで仕上げ、開口部には木製格子戸を新たに入れて町家の佇まいを継承した。単なる再生ではなく、現代の視点で新たな価値を見出し、建築にすることを目指した。



2018 年度 第 47 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	blue garden bar PICASSO（ブルーガーデンバーピカソ）			
	所在地	七尾市		
設計者	岡田 翔太郎 岡田翔太郎建築デザイン事務所商事合同会社			
	TEL		URL	



#### 設計概要

石川県七尾市にある和倉温泉旅館多田屋の blue garden bar PICASSO の改修工事である。ここは 1885 年創業、七尾湾に隣接し傾斜地に位置する 3 階建ての老舗旅館で、自然豊かな能登湾の風景を一望することができる宿として有名である。今回の改修工事は、かつて潮音として使われていたスペースを新たにバー空間として作り変えるというものである。この改修スペースは、旅館の中庭に面する位置にある。中庭の景観を内部に取り込み豊かな空間をつくることを目指した。現在、多田屋旅館内の複数箇所改修工事を進めているがインテリアデザインは多田屋のコンセプトに沿うように和と洋のエッセンスが調和するものとし、和洋折衷をデザインコンセプトと定めている。今回の blue garden PICASSO も館内同様に和洋折衷の空間となるように、既存の潮音の大正浪漫的空間を残し、いかながら設計を行った。